



ふるかわ とおる
古川 徹 教授

～ 病態病理学分野 ～

講義題目

病態病理学の探究

【略歴】

| | | | |
|----------|-----------------------|----------|-----------------|
| 1986年 3月 | 秋田大学医学部卒業 | 1996年 7月 | 東北大学医学部助手 |
| 1986年 5月 | 国民健康保険五戸総合病院医員 | 1999年 4月 | 東北大学大学院医学系研究科助手 |
| 1988年 4月 | 東北大学医学部附属病院研修医 | 2005年12月 | 東京女子医科大学特任助教授 |
| 1988年10月 | 東北大学医学部附属病院医員 | 2008年 4月 | 東京女子医科大学特任教授 |
| 1992年11月 | 医療法人徳洲会仙台徳洲会病院 | 2010年 4月 | 東京女子医科大学教授 |
| 1993年 2月 | 東北大学大学院医学研究科博士号（医学）取得 | 2017年 4月 | 東北大学大学院医学系研究科教授 |
| 1993年 8月 | 加国モントリオール総合病院研究所研究員 | 2026年 3月 | 退職 |
| 1995年 9月 | 東北大学医学部附属病院医員 | | |

【研究業績等の紹介】

古川徹教授は、ゲノム病理学を提唱・推進し、難治性疾患のゲノム解析、中でも最も難治性の悪性腫瘍である膵臓癌のゲノム解析を精力的に進めてきた。

その研究成果は多岐にわたり、膵臓癌における DUSP6 不活性化の発見、膵管内乳頭粘液性腫瘍における GNAS 遺伝子変異の発見および同遺伝子異常を有するマウスモデルにおける腫瘍発症の世界初の実証などが挙げられる。さらに、膵腺房細胞癌における高頻度の BRCA2 遺伝子変異とそれに対する白金製剤の特異的効果の発見、膵管内管状乳頭腫瘍の発見と同腫瘍における PI3K 経路遺伝子変異の同定、膵臓癌における MAPK 信号伝達経路異常のメカニズム解明と SON を代表とする治療標的の発見および膵臓癌治療核酸医薬の発明と特許取得などの業績を残した。また、膵上皮内腫瘍性病変の概念確立と膵癌発生過程の解明、膵管内腫瘍分類の確立、早期ステージ膵癌の分子病理学的特徴の解明、患者由来膵臓・胆道・唾液腺癌オルガノイドの樹立と解析等、重要な発見・発表を次々と行った。

これらの研究功績に対し、1990 年 8 月国際膵臓学会ポスター賞、1991 年 8 月日本膵臓学会展示奨励賞、1994 年 9 月 Government of Canada Award、2002 年 11 月膵臓病研究財団研究奨励賞および日本病理学会学術研究賞、2009 年 11 月米国膵臓学会 The Hirshberg Award for Pancreatic Cancer Research、2023 年 5 月日本病理学会日本病理学賞を受賞した。2010 年より世界保健機関腫瘍分類

第4～6版の著作を担当した。

教育面では、病理学・遺伝学・臨床腫瘍学の学生教育および大学院生の研究指導に尽力し、30名に上る大学院生の学位取得を主導した。診療面においては、日本専門医機構認定病理専門医として病理診断にあたり、特に、膵臓胆道疾患病理診断に造詣が極めて深く、日本病理学会病理診断講習会講師、米国・加国病理学会スライドセミナー講師を務め、コンサルテーション診断にも度々貢献した。累積病理診断件数は10万件超に及んだ。また、社会的貢献として、日本病理学会理事・評議員、日本膵臓学会評議員、日本胆道学会評議員を歴任し、2025年4月には仙台市にて第114回日本病理学会総会を会長として主催した。2005年より膵臓癌患者支援団体パンキャンジャパンの科学諮問委員を務め、その長年の功績に対し、2025年7月のパンキャンジャパン設立20周年記念会合において感謝状を授与された。